

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第122号

平成28年1月4日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

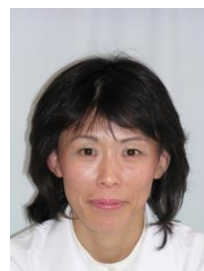
FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

あかちゃんの顔認識



小児科部長 桑原 里美



先日小児科の勉強会で、あかちゃんがいかに顔を認識しているかについて中央大学の山口真美先生からお話を聞く機会がありました。その話を少しかいつまんでお伝えしたいと思います。

あかちゃんの視力の発達は素晴らしい速度で成長していきます。生後2か月には動きを認識する能力が発達しはじめ、生後3か月には動きがあれば形を認識できるようになります。生後5か月には形を認識する能力が発達し動かなくても形を認識することができ奥行も理解できるようになります。生後7か月には立体感を感じることができるようになり、また光沢感のある色つまり金色を好んでみることができ、また青・紫・赤を好んでみるようになるそうです。赤ちゃんの体の発達とくらべてみると今更ながなるほどと納得します。生後2か月でくると顔の向きをかえて一生懸命みようとし、3か月では動くもののかたちが認識できるようになるので天井ばかりみていないで首がすわって多くのものをみるようになり、7か月では立体感を感じることができるからこそお座りができるようになっていくのでしょう。

もともと生まれたすぐから、あかちゃんでもすでに”顔”だけは特別に認識する能力があるようです。顔図形だけでなく同心円や縞図形を好んでみているようですが、驚くべきことに新生児のときから認識できる顔はなんとすべて正面の顔のみようです。顔を認知する能力に限っていえば、生後すぐから恐怖顔より笑顔を好んでみるようになり、生後3か月ぐらいで笑顔を学習できるようになります。5～6か月で笑顔と怒った顔でことなる脳反応を示すようになり、生後7か月では母親の顔に対し特殊な脳反応を示すようになり、その後生後8か月ぐらいからようやく横顔が認識できるようになるそうです。つまり生後8か月までは視線をむけない顔は認識できないというわけです。

というわけで、スマートフォンやゲームやテレビなどメディアに気をとられてあかちゃんの顔をしっかりとみないでお世話しているといつまでも顔の認識が進まず、お母さん・お父さんを認識してくれなくなります。そんなあかちゃんは両親への反応も薄くなりこれがまた虐待の芽となる可能性もあります。スマホに子守りをさせないというスローガンはただの老婆心ではなく、科学的な根拠がしっかりとあるのです。視線をあわせて顔を見つめることがどれだけ多くの能力をはぐくむのか今更ながら痛感し、また驚かされました。

嚥下評価について



耳鼻咽喉科部長 加藤 貴重



経口摂取は、食事から栄養成分を吸収するとともに、味わうことで「生きる喜び」を実感し、気力を生み出す力にしている。「人間が人間らしく生きる」うえで、経口摂取は、欠かすことのできない大切な条件と言える。しかし、経口摂取は様々な要因によって機能低下を生じ、時には誤嚥性肺炎は発症する場合もあり、QOLの低下を招くことが多い。

しかし、嚥下評価は四肢機能評価と異なり、体表からの観察のみでは十分な情報を得られない。そのため、いろいろな評価法がある。今回は「嚥下内視鏡検査（VE）」、「嚥下造影検査（VF）」について紹介させていただきます。

嚥下内視鏡検査（VE：Video-endoscopy）

特徴：喉頭ファイバーにより、咽頭・喉頭の器質的また機能的異常の有無の確認ができる。

検査食を食べ嚥下のタイミング、残留、誤嚥の有無などを評価できる。

方法：

- ①非嚥下時；器質的異常、声帯麻痺・咳反射の低下など機能的異常、唾液貯留の有無を確認。
- ②嚥下時：実際に検査食物（水・ミキサー食・常食など）を食べていただき、嚥下反射の惹起性、咽頭クリアランス、誤嚥の有無、誤嚥後の咳反射の有無を確認。

Point：内視鏡にて直接確認できる。

嚥下造影検査（VF：Video-fluorography）

特徴：透視下で、バリウムを使用して行う。

嚥下動態の異常、誤嚥の有無・程度、また食道の通過状態も確認できる。

方法：正面・側面から透視下にて施行。造影剤を嚥下し、姿勢・体位を変えて施行。

口腔保持・鼻咽腔閉鎖・喉頭挙上・食道入口部の開大、食道の通過などを確認。

Point：咽頭喉頭の動きのみでなく食道の状態も一部確認できる。

VE・VFともに利点・欠点があり、その状態に合わせて嚥下検査を施行しています。近年、高齢者社会になるにつれて嚥下機能の低下している患者が増えてきています。きちんと評価し必要に応じた対応をすることが、今後の患者のQOL向上のきっかけになれば幸いです。

VFおよびVEにおける評価項目

期		VE	VF
口腔期	食物の咀嚼	×	○
	食塊形成	×	○
	食塊の送り込み	△	○
咽頭期	鼻咽腔閉鎖	○	○
	喉頭挙上	△	◎
	声門閉鎖	○	×
	咽頭収縮	△	◎
	食道入口部の弛緩	×	◎
食道期	蠕動運動	×	○
	食物の移動	×	○